

エッセイ、短歌、小説など、幅広い分野で活躍する
注目の作家・くどうれいんの最新作は待望の食エッセイ!



photo:momoka omote

やはり湯気の前に立つと、ああ、生きていると思う。
これまでよりもずっと自分の暮らしに
(いいじゃん)(こんなもんじゃん)
と思えるやわらかい夜が増えた。
三十歳になって厨に立つと、十代のわたしも
二十代のわたしも横に並んでいるような気がする。

書き下ろしや河北新報での東北エッセイ連載
などを加えた、心にひびく48編を収録。

湯気を食べる

くどうれいん



人生に余韻があるから自炊をわがしんでいるのではない。
余韻がない人生のなかで、自分の人生に潤滑するための
その手段が食だった。